

2015年10月

【理念】 「愛し愛される病院」

【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ご挨拶

平成20年8月に全床回復期リハビリテーションの専門病院になってから今年で8年目を迎えました。昨年度は、病院機能評価更新審査であわただしく過ぎていきましたが、今年度はそれにより見いだされた課題について取り組んでおります。

特に回復期リハビリテーション病棟としての質の評価（数値化）は、目標設定がより具体的になり、病院としての強み・弱みが明らかとなります。質の評価には、ドナベディアンモデルの3つの視点からの評価が使用され、回復期リハ病棟について考えたとき、①structure（ハード面）では専従スタッフ数、訓練室、リハ機器の充実など、②process（ソフト面・ケアプロセス）ではリハビリの提供単位数、地域連携、障害重症受け入れ、リハ・看護技術・チーム医療・カンファレンス、再発予防、合併症予防、医療安全（特に転倒）、感染・褥瘡防止対策、など、③outcome（結果）にはADL改善度（FIM/B I）、看護必要度B改善、在宅復帰率、入院期間、退院後のフォローなどがあげられます。

分析結果より『重症度の高い患者さまを受け入れていながら、高い在宅復帰（率）を実現させている』など当院の強みとなる結果が出てきています。今後数値化された強みを積極的に公表し、地域連携への更なる貢献を目指します。

そのだ のりみ
看護部長 園田 祝美

入職医師挨拶

このたび9月1日より、杉並リハビリテーション病院に勤務することになりました。

急性期病院での入院治療を終えられた患者さまが1日も早く元の生活に戻られます様、たとえ障害が残っても住み慣れた地域で納得のできる生活を続けられます様、当院スタッフ全員と力を合わせお手伝い致します。

「愛し愛される病院」の一員として地域の皆様に信頼され、患者さまとご家族のお役に立てる様努力致します。どうぞよろしくお願い致します。



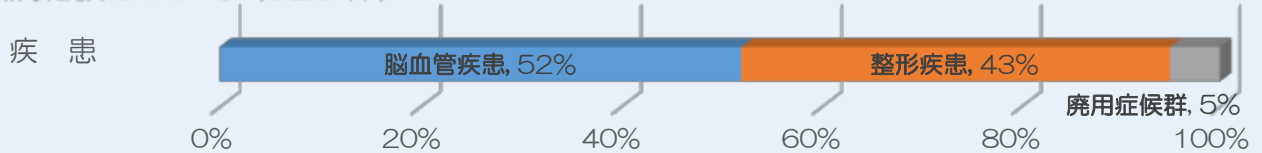
わかい まりこ
医師 若井 真理子

入院窓口から 入院相談と入院患者さまについて

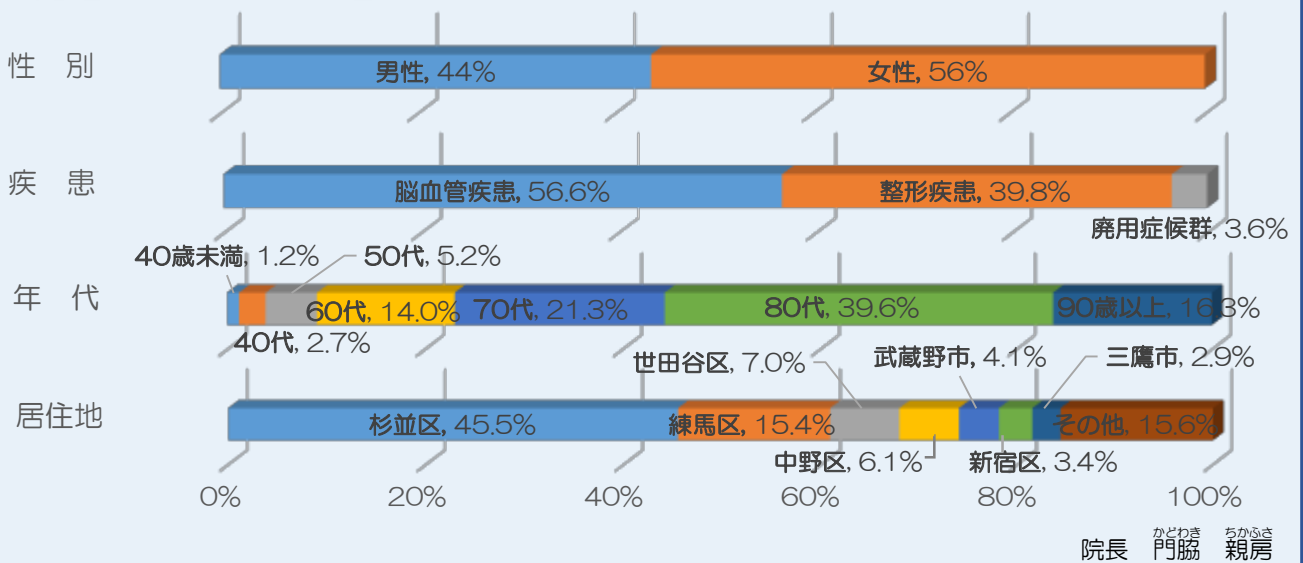
回復期リハビリテーションの専門病院である当院の入院患者さまは 100%急性期病院からの紹介入院となります。急性期病院の医療相談室等からの入院相談を受けてから入院までの待機期間は約 2 週間（最短 3 日）と、非常に短いのが特徴となっております。

H26 年度は 80 か所の急性期病院から 442 名の入院患者さまを受け入れ、349 名（85.1%）の方が在宅（有料ホームなど含む）へもどられ、地域医療のいち役を担っています。

1. 入院相談について（820 件）



2. 入院患者について（442 名）



院長 門脇 親房



～特集～ くも膜下出血へのリハビリテーション

入院患者さまの約 6 割を占める脳血管疾患には脳梗塞や脳出血だけではなく「くも膜下出血」も多く、その後遺症として意識障害・重度麻痺、または高次脳機能障害等、その症状は様々です。

今回は、麻痺は軽度ですが高次脳機能障害を呈しており、入院時より筋力の低下が認められる患者さまに対して、当院ではどのような取り組みをしているかを紹介いたします。

理学療法士・作業療法士は連携し、筋力強化・耐久性向上、生活動作の安定性（安全性）向上を目的に介入します。言語聴覚士は、主に高次脳機能の評価を行い、失語症・記憶障害等についてご家族の理解を深めながら、生活上での代償方法やコミュニケーション方法等について家族指導を実施していきます。筋力の向上が見られたところで、各療法士は看護師・介護福祉士らと協力し、記憶障害等による混乱が生じないよう自宅環境に合わせた日常生活動作方法（移動・整容・更衣・トイレ・入浴など）の統一を図り、それらの獲得に努めます。

また、後述する入院時訪問指導や家屋調査（ケアマネージャー同伴）、外泊訓練等も積極的に実施し、患者さまの自宅環境への適応とご家族の高次脳機能障害への理解をより現実的なかたちにしていきます。

当院の回復期リハビリテーションを退院したのち、まだ各機能の安定性の向上が考えられる場合は、退院後の介護サービスとして訪問リハビリテーションを提案しております。当院で提供している訪問リハビリをご活用いただくと、回復期スタッフと訪問スタッフの情報共有にて、より有効なサービスが受けられると考えております。

リハビリテーション科作業療法士 宮坂 祐規

～入院生活中のリスク管理～

回復期リハビリテーション病棟としての感染対策の取り組み

回復期リハビリテーション病棟入院中の感染対策ポイントは、

- ① 数カ月のスパンで患者さまが入院する。(長期暴露の可能性)
- ② 共同で使用するものが多い(補助具・機材・トイレなどで感染しやすい環境)
- ③ 抵抗力の弱い患者さま(高齢者、術後)が多い
- ④ 患者さまが移動する(高次脳機能障害、認知症の患者さまが感染仲介者となる)
- ⑤ 職員層(セラピストが職員の半数を占めるため感染対策に対する教育の工夫が必要)の5つがあげられます。



当院のICT(院内感染対策チーム)ラウンドは環境ラウンドが主です。今年の7月からリハビリ室の感染対策・セラピストの感染教育強化のため、ICTラウンドにリハビリ科の管理職が参加するようになりました。これによりリハビリ中のバルカテール管理、共同で使用する物品の清拭、嘔吐物・排泄物の対応方法など、少しずつ改善されています。問題となる場面ではデジカメで撮影し感染対策委員会で検討した上で、より具体的な改善方法を各部署に提案しています。

また、杉並・中野感染管理ネットワークと久我山病院感染カンファレンスに参加し、他の病院と積極的に交流する事により、幅広い視野からの感染情報を取り入れたり、対策方法の助言を得たりしています。

今後も回復期リハ病棟の特徴を加味しながら、感染対策に取り組んでいきたいと思っております。

そのだ のりみ
看護部長 園田 祝美

退院に向けて♪

患者さまの在宅復帰に向け 私たちが取り組んでいること…

その①「入院時訪問指導」の積極的導入!



当院では以前より、退院前訪問指導・退院後居宅訪問の実施に努めてまいりましたが、現在『入院時訪問指導』にも力を入れています。

『入院時訪問指導』とは患者様の自宅などを入院後早期に訪問させて頂き、退院後の生活環境を当院専門職が評価させて頂きます。それにより、入院早期から退院後の環境を想定した総合的なリハビリテーション実施計画が立案でき、リハビリプログラムも退院後の生活に必要なと考える機能・能力に合わせ提供することが出来ます。

在宅復帰を円滑に進めるこの取り組みには、紹介元病院、退院後関わるサービス事業者との協力体制が必要不可欠です。今後も、患者さま・ご家族を中心に他職種との連携強化を図り、患者様の退院後の生活環境を早期から整えられるよう、努めて参ります

その②「健康教室」「家族介護教室」で地域連携!!

当院リハビリテーション科では、地域包括支援センターと協力しさまざまな取り組みを実施しております。

- ◇ 健康教室 : 7/24 『腰痛・膝痛を生み出さないためには(講義・実技)』
7/29 『筋力について(ミニ測定会・講義・体操)』
- ◇ 家族介護教室 : 6/18 『負担のかかり易い家事動作姿勢(講義・体験)』
7/16 本人の持っている能力を生かして(講義・体験)』
- ◇ 今後の予定 11/6 **ご近所ささえあい教室(ケア24善福寺)**
11/26 **声や嚥下に関する講義・実技(ケア24上井草)**



◆ 平成 27 年 4 月～8 月入院患者数と紹介元医療機関

4 月から 8 月の 5 か月間における新入院患者は 165 名、紹介元医療機関は以下の通りです。
(順不同、敬称略)

NTT 東日本関東病院、青梅市立総合病院、荻窪病院、樺島病院、河北総合病院、吉祥寺南病院、杏雲堂病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、慶應義塾大学病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、国立埼玉病院、三楽病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属練馬病院、関町病院、大東中央病院、田中脳神経外科病院、多摩南部地域病院、中央林間病院、中部ろうさい病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京医科大学病院、東京医療センター、東京衛生病院、東京警察病院、東京女子医科大学病院、東京山手メディカルセンター、虎の門病院、都立神経病院、都立多摩総合医療センター、都立墨東病院、新渡戸記念中野総合病院、西東京中央総合病院、練馬総合病院、保谷厚生病院、三宿病院、武蔵野赤十字病院、山中病院ほか

以上、41 か所 ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月
ベッド稼働率	98.6%	98.6%	98.1%
入院延べ患者数	3,123 人	3,126 人	3,011 人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…86.0%

重症患者割合(直近6ヶ月)…31.0%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…56.7%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合

※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

編集後記

機能評価更新準備を始めた2年程前から広報誌のあり方について見直す必要性を感じておりました。配布をしている医療機関へは、病病・病診連携を強化するための情報の配信が必要となります。今号は編集委員を再編成しての“第1号”です。目にしていただいた皆様に有効であれば幸いです。

(編集委員)

医療法人社団 瑞心会
杉並リハビリテーション病院
内科・リハビリテーション科

- 発行： 行： 杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者： 門 脇 親 房
- 編集： 総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)

